表 9　交流体験事業の参加した後、学校やふだんの生活で自分が成長できたと感じる点

2メートルも積もる雪を見て、楽しい事もたくさんありましたが、大変なことの方が多い事がわかりました。しかし、暮らしの工夫に触れ、豆打ちなど保存方法の知恵を学べました。いろいろな友達と出会え、学び合う事ができて楽しかったです。特に災害については、身近に感じる事がなく、対策などもしていませんでしたが、今回学べたことで、どういう備えが必要か、自分なりに考える事ができるようになりました。この体験を通して、仲間の素晴らしさと雪国の工夫がよくわかりました。楽しかったです。ありがとうございました。山古志のごはん、とてもおいしかったです！／初めて会う人と仲良く出来るようになった。山古志のような村か本当にあるんだと実感出来た。様々な伝統、文化に触れる事が出来て良かった。／行く前はお友達ができるか不安だったが初対面のお友達とも仲良く過ごす事が出来たのが成長したとおもう。／お手紙を見て興味を持って申込みをしたけれど、参加するまでは緊張して不安でいっぱいでした。でも参加してみると、色々な体験ができて、お友達もできて、参加してよかったなぁと思いました。これからも初めてのことにも挑戦してみたいと思います。／あんまり関わりの少ない同級生とも話す事が出来ました。色々なことに挑戦したり、集中力が伸びたりしました。／色々な文化のことが分かった／自分の事を一人で出来るようになった。／協力や、友だちの大切さなどがよくわかりました。／雪かきで協力して、他人との協力がより大切だと実感した。早寝早起きは相変わらず苦手だけど、習い事などには時間通りに行けるようになったので、早寝早起きもできるようになるよう頑張りたい。また機会があればよろしくお願いします。／何事にも積極的に挑戦するようになった。（男子とのドッヂボールにも挑戦）

3-9．保護者からみた交流体験事業の参加後の子どもの成長や子どもの変化を感じる点（フォローアップ調査）

「保護者からみた交流体験事業の参加後の子供の成長や子供の変化を感じる点」を表 10 に示す。回答から、保護者は、子供たちが交流体験事業に参加し、地域や地域文化に対する興味や理解、そして自然災害への関心を深め、視野を広げたことに感謝している。また、様々な体験を通じて、協調性やコミュニケーション能力が向上したことも評価している。さらに、物事に前向きに取り組む姿勢や自分で情報を調べる習慣の獲得など、挑戦や経験を通じて、子供たちが成長をした姿に喜びを感じている。

表 10　保護者からみた体験事業の参加後に子どもの成長や子どもの変化を感じる点

中越地震の勉強をして、災害に関する本をよく読むようになりました。地震、台風、津波など身近に感じるようになったようです。新年早々の能登半島地震にも積極的に耳を傾けて、自ら募金に向かっていました。そして、学校外でのお友達と触れ合う事ができ、本当に楽しそうでした。日頃、できない経験を山古志体験ででき、そして、4泊5日という長い時間を親から離れて過ごす事ができた事も自信につながったように思います。素敵な時間をありがとうございました。／色々な事を積極的に知ろう、理解しようとゆう姿勢が強くなったような気がします。またこうゆう事業があれは大変嬉しいし、もっと沢山の子供達に体験や交流をして欲しいなと思いました。／内気な性格でクラス替えでも毎年知ってるお友達がいるか不安でいないと学校に行きたくなくなるくらいな性格でした。なので親元を離れて山古志村に行きたいと言われた時はビックリしましたがチャンスと思い申し込みました。帰ってきてから数日は山古志村での防災やお地蔵さん、雪遊びや鯉についての話、一緒に行ったお友達の話をずっとしていました。山古志村での体験に自信がついたのか積極的な性格になってきたと思います。（習い事で知ってるお友達がいなくても行きたがらない事がなくなりました。） 本人は山古志村の学校に転校したいと言っています。良い体験をさせて頂きありがとうございました。／娘が1人で泊まりに行くことは本当に初めての経験だったので、4泊5日の体験事業に自ら参加したいと言ったこと自体が驚きでした。不安もたくさんあったようですが、東京駅に帰ってきた時、お友達と仲良くなって、自分で連絡先を聞きに行き、積極的に交流している姿を見て、すぐに成長を感じました。その他の事業にも参加してみたいと言っており、自信がついた様子です。山古志村で震災についても学び、自宅での地震対策にも関心を持ち始めました。親から離れて様々な方と交流させて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。本当にありがとうございました。／ざっくりですが、視野が広がった事です。ずっと〇〇市に生まれ、この中の景色しか見て過ごしていなかったですが、こちらに参加してからは、そういう地域で過ごす人たちの姿や想いを想像したりする事が出来るようになったと思います。　話の中に色々な場面で、過疎の地域と都内との違いや、環境の違い、雪国で生活する事などがでてきます。石川の地震の時も、山古志村を心配したり、山古志村の地震の時はこうだったああだったと、家族に色々教えてくれました。昨日は積雪があり、雪を見て、ああ、山古志思い出すなぁ。と思いを馳せていました。あと、くだらない事なのですが、ずっと嫌がって食べなかった目玉焼きが好物になって帰ってきました。お友達との楽しい朝食の中で食べたちょうどいい半熟目玉焼きが思い出の味になった様です。／これまでは地震のニュースを聞いても、あまりピンとこない様子でしたが、能登半島地震が発生した時には震度や被害状況を調べたり、山古志は大丈夫なのかも心配していました。おそらく中越地震について勉強させていただいたことで、地震についての意識が変わったのだと思います。／東京とは違った山古志での暮らしや知恵について話してくれました。／実際に活用することは難しくても、身を持って体験できたことはとても貴重な経験だと思います。／お友達がいない中に一人で入っていき、新しいお友達を作り、楽しく過ごせた事が本人の自信となりました。学校で提出物を出したり今までやっていなかったことをやるよう心がけている様子が伺えます。とても良い体験をさせていただき、本人の成長につながりました。ありがとうございました。／昨年も別の遊びの宿泊体験会に参加し、その時は心細かったらしいのですが、今回はその時より慣れたこころ持ちで帰ってきたのが印象的です。以前の宿泊の時に思ったことはなかなか本人の性格等は変わらないと思ったのですが、前回でも今回の体験交流会でも経験は必ずプラスになってると思います。具体的に変わった、成長したとは思いあたらないのですが、山古志の景色が綺麗だったと話してくれたことは今までゲームやらしかしなかった本人の口からそんな言葉が出てくるとは思いもしませんでした。〇〇（子供の名前）にとって山古志村が原風景になってくれればいいなぁと思っております。／興味の幅や好奇心のアンテナがさらに増えた気がします。以前より少しだけですが、責任感も生まれたような気がします。とても素晴らしい体験をさせていただいたことに大変感謝しております。また機会がありましたら是非お願いしたいです。／疑問に思ったことなどについて、自分から積極的に調べるようになった。

4．受け入れ側の地元協力者へのアンケート調査の結果

4－1．今回実施した取り組みをどのように思うか

「今回実施した取り組みをどのように思うか」については、10名中8名（80.0%）が「非常に良かった」、2名（20.0%）が「まあ良かった」と回答した。

4－2．今後も機会があればこのような取組みに参加し、子供たちと関わっていきたいと思うか

「今後も機会があればこのような取組みに参加し、子供たちと関わっていきたいと思うか」については、10 人中 6 名（60.0%）が「非常にそう思う」、4 名（40.0%）が「少しそう思う」と回答した。

4－3．今回の取り組みの良かった点と改善すべき点

回答から、受け入れ協力者は、今回の取り組みの良かった点として、「山古志を理解してもらえたこと」「子供たちが山古志や提供した取り組みに興味・関心を持って行動してくれたこと」「子供たちと触れ合い、一緒に活動ができたこと」などを挙げている。一方、ほとんどの受け入れ側の地元協力者が、改善すべき点は「特にない」と回答した。

4－4．子供たちとの関わりを通じて感じた自分自身の生活や気持ちの変化

「子供たちとの関りを通じて感じた自分自身の生活や気持ちの変化」を表 11 に示す。回答から、受け入れ側の地元協力者は、子供達との交流を通じて、喜びを感じ、再び活力を取り戻している様子が伺える。また、久しぶりに子供達との会話を楽しみ、若返った気持ちと活力を得たことも分かる。さらに、若い世代との交流が健康に良い影響をもたらすことを再確認したようである。

表 11　子供たちとの関りを通じて感じた自分自身の生活や気持ちの変化

うれしくなりました。／これからもまた老体にムチうって頑張りたいと思います。／現在忘れがちなものを再認識させられました。／子供達とかかわりあってとても楽しかったです。／地区内に子どもが少ないことと、毎日の忙しさに、子どもたちとのふれ合いがほとんどありません。食や地区のことについて、もっと発信し、理解してもらうよう努めなければと思いました。／子どもの声を聞くこともなかったので、とても良かったです。／はじめて子供達との話だったので何をお話しして良いかわからずに困った。／久しぶりに多くの子供達と色々お話しでき大変よかったです。若返った気持ちと気をもらいました。／又ぜひ山古志に来て下さい。／認知症の予防になり、児童（若い方々）と話が出来てとてもうれしく思います。

4－5．今回の取り組みに対する感想や意見

「今回の取り組みに対する感想や意見」を表 12 に示す。回答から、受け入れ側の地元協力者は、今回の取り組みを好意的に受け止め、機会があれば、また子供たちと交流したいと考えていることが分かる。

表 12　今回の取り組みに対する感想や意見

他の学校の交流で一緒に仲良しでうれしい。／子どもたちがニシキゴイに興味を持つことはうれしい。将来1人でも飼ってくれればいい。／とても有意義な時間をすごす事ができました。ありがとうございました。／また機会があれば参加したいです。／私も楽しませてもらいました。／手づくりのおそばの会食はとてもよかったと思います。子供達は美味しいと完食してました。寒いときですので、次回は寒さのない頃、又おあいしたいと思います。／又、是非誘致してほしいです。

令和 5 年度 文部科学省委託
「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業 成果報告書

過疎地に学ぶ。暮らしの知恵にふれる交流体験事業 @ 山古志 / 新潟県長岡市

子供が体験してつくった！ 暮らしの知恵手帖

自然と共にある暮らしに必要なのは地域の絆であり、体験から得た知恵である。新潟県長岡市山古志は国内有数の豪雪地であり一年の約 3 分の 1 は雪景色となる。冬は毎日が雪との格闘であるが、不便だからこそ知恵があり豊かな文化が育まれる。そんな人口約 800 人の地域を知り、「伝統食体験」や「雪国のあそび体験」、「伝統文化体験」、「日常生活体験」を行い、豪雪地ならではの暮らしの知恵から生まれた「生き抜くチカラ」の獲得を目指す。また、山古志は中越大地震の際に甚大な被害を被った地域でもある。災害から復興を遂げた「生き抜くチカラ」に変える原動力にも触れる。

ウェルビーイングを向上させる 子どもの体験活動が、過疎地を元気づけた！

本事業では、参加者（子供たち）の心理的・行動的側面に対する交流体験事業への参加の効果について検討することを目的に調査を実施した。本調査から得られた主な結果は以下の通りである。

1. 参加者は、交流体験事業を通じて、雪国の知恵や山古志の地域文化を理解し、視野が広がった。また、興味や好奇心が増し、疑問や関心事について積極的に調査するようになった。
2. 参加者は、雪国での生活や災害対策について学び、暮らしの工夫や食物の保存方法の生活の知恵を得た。
3. 参加者は、新しい友人との出会いや交流を通じて、仲間との協力や友情の大切さを学び、コミュニケーション能力や社会性を向上させた。
4. 保護者は、子供たちが体験交流事業に参加した後、様々な側面で成長したことに喜びを感じている。
5. 受け入れ側の地元協力者は、子供たちとの交流から喜びを感じ、再び活力を取り戻している。久しぶりに子供たちとの会話を楽しみ、若返った気持ちと活力を得た。

以上の結果から、交流体験事業への参加は、参加者（子供たち）の物事に取り組む意欲、物事への興味・関心、仲間と強調して取り組む力や姿勢などの非認知能力や生きる力の向上に寄与することが明らかとなった。また、交流体験事業を受け入れる側の人々の心身の健康に対しても恩恵をもたらす可能性が示唆された。 ー詳細は本文にて紹介

特定非営利活動法人 日本余暇会
〒191-0033 東京都日野市百草 1002-19　E-mail：info@yoka.or.jp　HP：https://yoka.or.jp

※以下は、できるだけ子供たちが記入したままに転載しております。

知恵１　生き抜くチカラ
＝「連携・協力・信頼・関わり」

Ｓさん　山古志の人々は、震災などの災害などのことがあっても、地域ですばやくれんけいして、協力して助けあっていまでもこの山古志にくらしていられるのがすごい！

・日ごろから訓練を行なっているから？
・人々が全力をだしたから？
・会議を行なっているから？
・書類などを用意しているから？
・そのような教室を行なっているから？
・地震を前に体験した人がいるから？

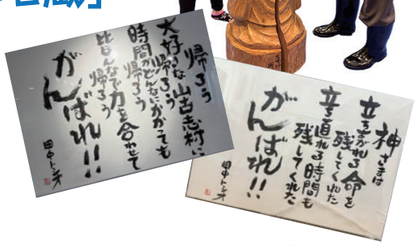
中越震災発生時点で止まった時計

Ｍさん　地震がおきた時の山古志の人々の協力がいんしょうに残った。地震がおきた時は、みんなで協力するのは当たり前だけど、でもみんなのその協力をみて感動したから。

Ｈさん　山古志の市民のあきらめずに復こうした。じしんで全部のたてものがくずれてお金とかめっちゃかかるし、人々の協力がひつようだからちょっとかんどうした。

Ｎさん　山古志の人々の「関わり」がすごい！ぼく達の住んでいる所は住人が多く全員との「関わり」や信頼がもてません。それに対して、山古志の人口は 800 人。その人口を生かし、多くの人との「関わり」「信頼」が深く協力できています。その「協力」のおかげで復興もはやかったと思う。また、人だけでなく生き残った牛をヘリでひなんさせたりしていて、一つ一つの命を大事にしていることが分かった。人はやぱり生きる上で、人と人の関わりが大切だからどんなに潤った生活ができていても全く関わりがないと生きる気になれないから。

知恵２　みんなの宝
＝「内外を結ぶ童地蔵」



Ｏさん　青木さんが毎年みがいていたじぞうを今日みがいた。中えつしんさいのときからあって、みんなの心がこもっていそう。青木さんは毎年みがいていたらたからくじがあたったらしい。なんで宝くじが当たったかは、そうじをして、運をいっぱいためたからだと思います。

Ｋさん　童地ぞうのいろいな場所にあって地しんやさいがいを守っていて昔からあってすごいと思った。地しんがおきて山古志のコミュニケーションがすごかった。

Ｓさん　現在９体童地蔵がいて、山古志に７体、火山活動で大変な思いをした三宅島に１体と阪神あわじ大震災がおこった神戸に１体あるそうです。中越大震災で倒れた木を京都のしょく人がほりました。地いきの人に大切に保存しているのがよく分かりました。年に一回新年を迎える前にお地蔵さんをふいているそうです。すごいところは世界に９体しかないことで、その貴重な物をてんじして様々な人に知ってもらおうとしているのがとてもいいことだと思いました。大事な物だからこそ伝えて行くことができると思いました。

Ｓさん　わらべじぞうの背中にある切りこみの理由がすごい！おじぞうさんのせなかにある大きな切れこみ。これを聞いた時、なるほどな～となりました。おじぞうさんにヒビが入らないようにはじめから大きな切れこみを入れておいているらしい！でも、何かを表しているような気もする！

Ｓさん　１つ１つおじぞうさんの顔が違うのがすごい！１つ１つ似てはいるけど、みんな個性のようなものがあり、自分のみがいたおじぞうさんさんが戻されてもわかるくらいでした。人が手作業でつくったから、１つ１つ顔がちがう！でも７体すべて似ている。

Ｓさん　童地蔵を今も大切にしているのがすごい！中越大震災から何年もたっているのに、大切にしているから。一年に一度、お正月の前にていねいに洗っているから。

Ｎさん　震災でたおれた木を使い、全部で９体の童地蔵を松本明慶佛師さんがつくりました。９体のうち１体は三宅島、もう１体は神戸にあり、残りの７体が山古志の『おらたる』に保管されています。この世界に９体しかない童地蔵はとても大切にされています。すごいのは、９体作ったうち２体を他の地域にわたしているところです。中越大震災で大変な思いをしたからこそ、何か他の地域でひがいがあった時にそのげん地の人の気持ちが分かり、苦しい気持ちになると思いました。それでも何かお手伝いができればと思う時に童地蔵をわたしたんじゃないかと思います。この大事な童地蔵をこれからも大切に守っていかないといけないと思いました。

長岡新聞　2024年1月6日（土）掲載

知恵３　地域の伝統食文化
＝「うち豆づくり」

Ｎさん　うち豆とは大豆をふやかしにたいてつぶしたものをかんそうさせて色々な料理にいれられる料理のもとです。ふつうに大豆をにるよりうち豆にしてにると時間が短縮されます。色々な色でうち豆をつくるとカラフルなうち豆ができます。うち豆のすごいところは、だしもとれるところです。普通に料理に入れてもいいし、だしを取って、料理に入れてもいいし、どちらの方法も使い料理をつくるのもいいと思いました。ちなみに手作業で作った方が美味しくなるそうです。料理の種類も様々で味噌汁や煮ものなど、たくさんの料理を作れます。この体験をして、雪国の知恵はとともてすごいんだなと思いました。

Ｈさん　いからしふみ子さんが教えてくれたうち豆の知恵がすごい！知恵とはうち豆をおゆであげて、ビニールでむすと、豆がやわらかくなるという知恵。機会もあるけど手作業でやる方がおいしい、という知恵。どうしてすごいと思ったと言うと、わざわざこんなに時間をかけてつくる必要ないと思ったからです。それに機械で行なった方が早くうち豆を作れるからです。

Hさん うち豆。かんそうさせた豆を一度ふやかして、ハンマーで叩いてさらにかんそうさせたものです。山古志の人はうち豆を煮たり、「きりぼし大根煮」「ひじき煮」「きりこんぶ」などに入れるとおいしいそうです！うち豆の良い所は、一つ一つ手作業で打つのは大変だけど、終わって料理で食べると、ていねいにすればするほどうまみが出るのでそうゆう所がいいです。おみそ汁に入れると、うまみがでるらしいです。ふつうの大豆ではなく、うち豆にすることで、煮る時間が短縮できるのでいいそうです。

Sさん 私がすごいと思ったのはうち豆です。いつもの大豆などではたたいてもわれてしまうけど、水分をふくませて大豆などが砕けないようにしたのがすごいと思いました。昔の人たちがにてたたいてだしをもっとおいしくしたりするはやさを早くしたりしたのですごいと思いました。うち豆は機械でつくる時もあるけどしっかりと手作業で作っている所がすごいと思いました。実際に「手作業の方がおいしい！」と体験の人たちが言っていました。これは山古志の伝統を守るためなのかなと思いました。家に帰ったら家族に色々話してみようと思いました。

Kさん うち豆はつぶすとほかんできるし、にるのに10分しかかからないから昔からつかわれている。だしにも使われている。雪がふって外で食べ物をとれない時など、ほぞんして何ヶ月も雪がふっても何ヶ月もほぞんできるので昔から使われている。

Nさん 食品の工夫がすごい！「うち豆」。豆に少し水分を含ませて、ハンマーでわらないように叩く潰す→保存食になる＋ゆで時間が10分ほどに短しゅくできる。

Hさん 昔の人のうち豆の知恵がすごい。いいところは保存食にもなるし、にこむ時間が10分になり短縮できる。保存食は地しんが多い山古志だと助かるし、山古志じゃなくても便利だから教えてくれると使える。

Mさん 豆をつかうみそ汁などの料理を作る時、うち豆を使うと料理を早く作ることができることを知り、すごいと思った。料理の時、うち豆のようなつぶれた豆の料理を見たことがない。

Oさん マメをつぶすときのすごいこと。すべて手さ業で、木づちでつぶして、平べったくする。入れてだしをだす（にもの、みそ汁）。げんちではきかいをもちこめそうでもないし、伝統も守りたいと言っていました。だから手さ業や知えを使って山古志でとどまっているんだと思います。

知恵4 地域の伝統食文化 ＝「雪を生かす」

Hさん いからしなつ子さんに教えてもらったちえがすごい！ちえとは初雪にあわせて大こんをほることであまくてやわらかくなる。どうしてすごいと思ったかと言うと、そのくらいおいしい大根をつくりたいということを知らなかったからです。あと初雪に大根をほるとあまくなるということも知らなかったからです。切り干し大根の魅力はいつでも食べられる。

Nさん 大根、キャベツ、レタス→雪を野菜に少しふらせることで少し甘い野菜になる。年をとった人は雪がふった後は、大変だからと言ってやらないそう。

Yさん 雪でうもる前に大根を切り干して保ぞん食にする。細くして太陽に当てたから。

知恵5 地域の伝統文化 ＝「錦鯉の品評」

Sさん 錦鯉などの大いに楽しめるご楽を作れてきたのがすごいと思います。とつぜんのい変などでそれが美しいひょうばんになり、一つのご楽になった。

Kさん 錦鯉はいろいろかっている場所があって色がちがう種類があって山古志はすごいと思った。錦鯉でコンテストやっているのもすごいと思った。山古志だけで96cmの錦鯉がすごいと思った。1つのところだけで500ぴき以上いるのががんばって育てていることがすごい。色がちがう種類があるのは鯉が錦鯉になってもようが変わったから同じで色が変わった。コンテストをやっているのはただ錦鯉をかってもつまらないからコンテストを作った。

Nさん 錦ごいは大正時代からいます。錦ごいの生まれた時の大きさは約5mmです。じゅみょうはだいたい25年くらいです。何回錦ごいの赤ちゃんが生まれても、同じもようの錦ごいは1匹もいないそうです。すごいところは、まっ黒い体からとつぜんへんいできれいなもようになったところです。もとはまごいという黒い体のこいだったのに、とつぜんへんいで赤、白、黒の三色や、赤と白の二色など、高いものでは100万円などするそうです、なぜ、こんなにきれいな色にとつぜんへんいしたのか気になります。

Mさん 自分は高く売れるこいのとくちょうは、もようがよいだけだと思ってたけど、こいのようしょく場の話を聞くと、それだけでなく、体がしゅっとしていたり、きらやかにかがやいているというとくちょうもまざっているというのを聞いて、すごいと思った。とくちょうがたくさんあって、どれが何円なのか、見分けるのが大変そうだった。

Oさん 山古志がはっしょうのにしきごいだからすごいことだから高いんじゃないかな。

Yさん どうしてまごいはとつぜん変いしてにしきごいになったのか。

※以下は、できるだけ子供たちが記入したままに転載しております。

知恵６　地域の伝統文化
＝「勝敗をつけない闘牛」

Ｓさん　闘牛のルールや歴史ほかにも色々なポイントなどすごい！闘牛ではけっちゃくをつけずに牛をわけるという山古志ならではのルールがあります。他にも終わったら左回りで牛をおきゃくさんに見せたりします。私が一番すごいと思っのは 1000 年以上の歴史があることです。闘牛がそこまでむかしからあるとは思わなかったので「すごいな～！」と思いました。

Ｓさん　くさまよりおさんや牛をかっている人の勝負をつけないところがすごい！なぜ勝負をつけないかというと負けるとたたかう力がなくなるから、それをかわいそうだと牛をかっている人などが思ったからだそうです。牛のつのつきなら勝負をつけた方が私は面しろいと思ったからです。牛をかっている人たちが牛のことをやさしく思っているのかもしれませんね！

Ｓさん　牛の角突き。山古志（新潟）発祥の約 1000 年の歴史をもつ牛どうしを戦わせる競技です。毎月５月～11 月にかけて月に１回、２回闘牛場でたたかいます。たたかいはあえてひきわけにして勝敗をつけないのが「牛の角突き」の魅力です。「牛の角突き」のすごいところは、約 1000 年も続いていることを、中越大震災のような大変な自然災害がある中でも伝統を受けつごうというきもちがいいと思いました。

Ｎさん　山古志の人々の生物への思いやりがすごい！闘牛の肉はかたくて食べられないそう。闘牛は昔家でかっていたが、地震後は、小屋のような所に住ませるようになった。

Ｏさん　牛が中えつじしんのときにヘリコプターで運ばれていくときいたのははじめてでおどろきました。あと、牛がつのつきのときは、つよそうでかっこよかったです。なぜ、牛は強いのだろう。

Ｙさん　とう牛、村人のご楽で勝敗がつく前に引き分けにし目などに角が入らない。手をあげたらおたがいが足をひっぱり鼻をはなす。

Ｏさん　とうぎゅうのすごいところ。いいところでやめてけがをさせない。右足とはなをつかむところ。理由はきけんでしかもあばれている。牛を大切にする気持ちからとちゅうでやめるのかな。

木牛で闘牛あそび！

木牛あそび　強そうな木牛をデザイン！

いかにも強そうな闘牛 / 木牛づくり体験

@山古志
新潟県長岡市・やまこし

知恵７　雪国のあそび
＝「かんじき・ソリ」

Ｍさん　かんじきのくつにつけると、雪にしずみにくくなるという知恵がすごかった。

Ｏさん　ぼくがいんしょうに残っているのはカンジキです。雪の上を安定して軽く歩けました。昔の人がこんな物をつくったのはすごいと思いました。カンジキはなぜ雪の上をスイスイ軽く歩けるのだろう？

Ｈさん　昔の人がつくった雪にハマらなくする便利なくつ。にいがただと雪もおおいし、ふわふわしているからはまりやすいし、やっぱり昔の人は天才。

Ｎさん　山古志の人達の雪の中での生活の知恵がすごい！「かんじき」→雪の上を歩く時にくつが雪の中にしずんでしまわない様に足につけ面積を大きくする道具です。

Ｋさん　かんじきは昔からあって雪をふんでも深くいかない。かんじきはかんたんな物でつくられているし便利な道具だから昔からつくられて使われてきた。

本事業の趣旨

社会の変化に伴い、子供を取り巻く環境は大きく変化している。一方、子どもの健やかな成長には豊かな心を育むことが不可欠であり、多様な交流体験機会、中でも自然体験活動の充実が重要であることは熟知のことである。また、自然と共にある暮らしに必要なのは「地域の絆」であり、体験から得た「知恵」である。そこで、本事業では異文化の生活交流体験を通して、子供の『非認知能力の向上』に寄与することを目的として実施した。

昨今、快適便利な生活による地域の絆や体験の機会減少はじめ、コロナ禍も相俟って子供の遊びのスタイルも集団から個、多世代から単世代へと変化している。不自由不便な環境下にて異学年の集団の中で生活をおくる越境体験を通して、葛藤を乗り越え、意欲や協調性、自己肯定感などの醸成につなげることで子供の well-being に向かう力を身につけることを目指す。

本事業の目的

自然と共にある暮らしに必要なのは『地域の絆』であり、体験から得た『知恵』である。新潟県長岡市山古志は国内有数の豪雪地であり一年の約３分の１の期間は雪景色である。冬は毎日が雪との格闘である。山の中、雪の中、不便だからこそ、知恵があり豊かな文化が育っている。

そんな雪国で、保存食や伝統食づくりなどの「食文化体験」、「伝統文化体験」「雪国のあそび体験」など、地域の方との交流体験を通して、豪雪地ならではの暮らしの知恵から生まれた「生き抜くチカラ」の獲得を目指す。

また、山古志は中越大地震の際に甚大な被害を被った地域でもある。今も残るその傷跡に触れ、自然の脅威を感じると共に、災害から復興を遂げた伝統の闘牛や錦鯉など伝統文化に触れる機会を通して地域の思いや復興までの道のりから「生き抜くチカラ」に変えた原動力に触れる。

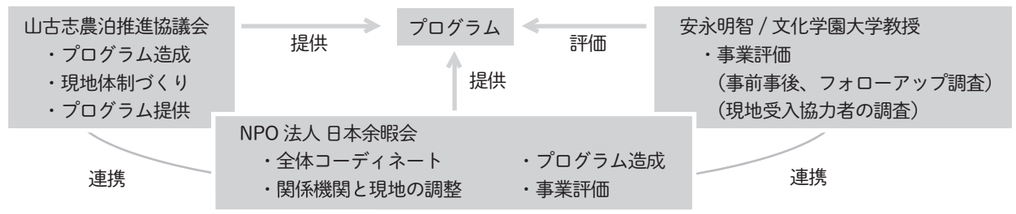
一方、子供たちとの交流体験による、過疎の進む地域に暮らす方々の意識変容についてもリサーチを行い、継続的な展開を目指した双方の課題解決に向けたモデルづくりを目指す。

実施要項

日　程：2023 年 12 月 25 日（月）～29 日（金）
場　所：新潟県長岡市山古志
　　｜宿　泊　先｜ 農家民宿山古志百姓や三太夫
　　（新潟県長岡市山古志虫亀 11165）
定　員：小学４～６年生、12 名
　　｜募集エリア｜東京都 稲城市・多摩市・日野市・町田市
参加費：42,000 円（宿泊費・食費・交通費・保険費等として）
内　容：右記、チラシ掲載の「プログラム」参照
主　催：特定非営利活動法人 日本余暇会
協　力：山古志農泊推進協議会・株式会社 共立観光 / 新潟支店

参加者募集チラシ

実施体制



事業評価

1. 調査の目的

本調査は、令和５年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト（子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業）」（文部科学省）の委託事業である「過疎地に学ぶ。暮らしの知恵にふれる交流体験事業」（2023 年 12 月 25 日～ 29 日；4 泊 5 日）（以下「交流体験事業」とする）の評価を目的に実施した。具体的には、参加者（子供たち）の心理的・行動的側面（特に、生きる力や非認知能力）に対する交流体験事業への参加の効果について検討した。

2. 調査方法

2-1. 対象者

※サンプル数が少なく、各変数の分布の正規性が確認できなかったため、ノンパラメトリック検定（フリードマン検定）を用いた。

本調査は、交流体験事業に参加した小学生 12 名を対象にした。その内訳は、男子８名（4 年生３名、5 年生４名、6 年生１名）、女子４名（4 年生２名、5 年生１名、6 年生１名）であった。交流体験事業に「自分で希望して参加した」「両親や家族からすすめられて参加した」と回答した参加者は同数（各６名；50.0%）であった。

また、今回の交流体験事業の終了後、受け入れ側の地元協力者（10 名）に感想や交流体験事業の良かった点・改善点などについて調査票を用いて尋ねた。

2-2. 調査手続きと質問項目

交流体験事業への応募理由や交流体験事業が参加者の心理的・行動的側面に与える影響などを検討するため、質問紙調査を交流体験事業の参加前（事前調査；2023 年 12 月中旬）、交流体験事業の参加後（事後調査；2023 年 12 月 29 日）、交流体験事業の約 1 か月後（フォローアップ調査；2024 年 1 月下旬 ~2 月上旬）に実施した。質問項目は交流体験事業の趣旨に沿って設定した。

2-3. 分析方法

連続変数に関しては平均値と標準偏差を、離散変数に関しては人数と割合をそれぞれ算出した。交流体験事業の参加前、参加後、フォローアップにかけての参加者の心理的・行動的側面の変化については、フリードマン検定を用いて分析した※。自由記述から得られた回答は、個人が特定できる情報を削除した上で、できる限り原文のまま掲載した。

3. 結果

3-1. 過去の宿泊を伴う体験事業への参加経験（事前調査）

「参加経験がない」が８名（66.7%）で最も多く、次いで「３回以上の参加経験がある」２名（16.7%）、「1 回の参加経験がある」1 名（8.3%）の順であった（無回答１名）。結果から、約７割の参加者が、宿泊を伴う体験事業にはじめて参加したことが分かる。

3-2. 交流体験事業に応募した理由（事前調査）

「交流体験事業に応募した理由」の集計結果を図２に示す。「いろいろな人たちと知り合いになりたい・友だちになりたい」に関しては、「とてもよくあてはまる」と「ややあてはまる」が同数で各５名（41.7%）、「あまりあてはまらない」が２名（16.7%）であった。「雪国の文化や暮らしを知りたい、

安永明智（やすながあきとも）
文化学園大学国際文化学部・教授
九州大学大学院人間環境学研究科博士
後期課程修了（博士・人間環境学）
専門は健康心理学
日本健康支援学会・評議員
《主な著書》
「**健康心理学・シリーズ健康心理学と**仕事 12」（分担執筆）北大路書房。

体験したい」に関しては、「とてもよくあてはまる」が 10 名（83.3%）、「ややあはてはまる」が２名（16.7%）、「今回の交流体験事業をとおして自分を成長させたい」に関しては、「とてもよくあてはまる」と「ややあてはまる」が同数で各６名（50.0%）であった。

その他の応募理由（自由記述）は表３に示す通りである。結果から、多くの参加者が「雪国の文化や暮らしを知りたい、体験したい」という理由で交流体験事業に応募したことが分かる。また、自由記述の回答から、「雪国の暮らしへの興味・関心」「雪遊びを体験したい」などの理由で応募したことが伺える。

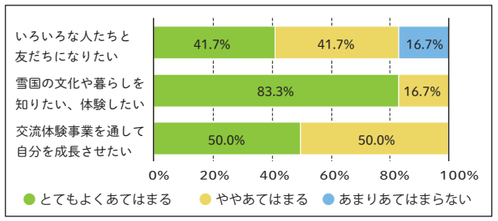


図２　交流体験事業への応募理由（回答 12 名）

表３　交流体験事業への応募理由（自由記述）

- 文化や自然を実感したり見たりしてみたいから。
- 雪国の暮らしに興味があったため。雪国の暮らしと東京の暮らしのちがいを知りたい。
- 雪国のくらしのちえをつけて雪国のくらしをもっと知りたかったから。
- かんじきをはいて雪の上を歩いてみたい。手打ちそばを作りたい。
- テレビでかんじきをみてはいて歩いてみたいと思った。
- にしきごいのストラップづくり体験をやってみたかったから、雪あそびがたのしそうだったから。全体的に興味があったから。
- 学校でプリントをもらったときたのしそうだったからです。

3-3. 今回の交流体験事業で楽しみにしていること（事前調査）

「今回の交流体験事業で楽しみにしていること」を表４に示す。回答から、参加者は「雪遊びを含めた雪国の生活」「地域の食文化」など山古志の地域文化や生活を知ること、そして体験することを楽しみにしていることが分かる。

表４　今回の交流体験事業で楽しみにしていること（自由記述）

- 雪の世界を見ること。雪遊びをすること。
- たくさん友達をつくる。雪国のくらし、ちえを知る。とまる、おん せん、雪かき。
- 新潟県に行きたかったから。新幹線にのってみたかったから。
- 山古志村でやる伝統文化体験などの体験学習。例えば、ソリや、手 打ちそば作り、おむすびづくり。
- おにぎりなどを作る。大根づくり体験。
- にしきごいのストラップづくり体験、おむすびづくり体験、そり遊び、雪あそび。
- ゆきかき、ソリ遊び、「手打ちそば」交流会、オリエンテーション、しんかんせんにのること。
- 交流体験事業の全部が楽しみです！
- 雪遊びや雪かきやかんじきトレッキングが楽しみです。
- かんじきで雪原の森散策、そり遊び。
- 雪、山古志の伝統文化を知りたい。
- 雪国のあそび体験、地域の食文化体験など。

3-4. 交流体験事業の満足度（事後調査）

参加者の交流体験事業の満足度（10 点満点）は、「10 点」が７名（58.3%）、「9 点」が４名（33.3%）、「8 点」が１名（8.3%）、平均得点は 9.5（標準偏差 0.67）点であった。結果から、参加者の交流体験事業に対する満足度は非常に高いことが分かる。

3-5. 楽しかった・興味深かった交流体験事業（事後調査）

「楽しかった、興味深かった交流体験事業」を３つ挙げてもらった（表 5）。結果から、「地域の伝統食体験」を挙げた参加者が最も多く（11 名）、次いで、「地域のあそび体験」（10 名）、「800 人の村を知る」（9 名）、「地域の伝統文化体験」（8 名）の順であった。

表５　楽しかった・興味深かった交流体験事業

交流体験事業	人数
【地域の伝統食体験】 うち豆づくり、切干し大根づくり、おにぎりづくり	13
【地域のあそび体験 / 雪あそび】 かんじき、そり、雪合戦	10
【800 人の村を知る】 童地蔵磨き交流、雪かき、手打ちそばを食べながら交流会、「マリと子犬の物語」鑑賞、減災プログラム / 中越震災を知る	9
【地域の伝統文化体験】 錦鯉見学、錦鯉のストラップづくり、木牛づくりと闘牛の講話	8

3-6. 交流体験事業に参加して自分が成長できたと感じる点（事後調査）

「今回の体験を通じて自分が成長できたと感じる点」を表６に示す。結果から、参加者は、交流体験事業での様々なプログラムを通して、雪国の暮らしの知恵や山古志の文化に対する理解を深めると同時に、4 泊 5 日にわたり他者と共同で生活することで、コミュニケーション能力や社会性の向上を実感している様子が伺える。

3-7. 参加者の心理的・行動的側面の変化（交流体験事業の参加前後、フォローアップ）

「交流体験事業参加前後、そしてフォローアップでの参加者の心理的・行動的側面の変化」を表７と表８に示す。フリードマン検定の結果、「はじめて会った人（友だち）と仲良くなれる」において、10% 水準で統計学的有意な得点の差が認められ（p=0.072）、参加前と比較して、参加後で得点の向上が示された（3.9 点から 4.4 点）。また、交流や約束を、きちんと守ることできる」（2 名から７名）、「始めたことは最後まであきらめずにやりとげることができ体験事業の参加前後で、各質問に「とてもよくあてはまる」（最も肯定的な回答）と回答した者は、「自分で決めたことる」（2 名から４名）、「必要なことや大切なことであれば、いやなことでも一生懸命にやる」（3 名から６名）、「はじめて会った人（友だち）と仲良くなれる」（2 名から７名）、「日本の文化を大切にしたい」（10 名から 12 名）の５項目で増加した。参加後からフォローアップで、「とてもよくあてはまる」（最も肯定的な回答）と回答した者が増加した項目は、「困っている友だちがいたら、手伝ったり、助けてあげる」であった（7 名から９名）。

表６　交流体験事業に参加して自分が成長できた点（自由記述）

◉自然や地域文化に対する理解の深化
- 雪国の生活のちえを学びほぞん食などを作る方法を知った。雪かきのくふうも。
- 山古志村に来て伝統を守ったり、伝統的な料理を食べたりすることができたのがたのしかった。
- 山古志の文化や地いきの遊びがいろいろあって文化や遊びを知れたから。
- 山古志のちえやでんとうをくわしく知りたいという事を自分じしんで思えたこと。

◉コミュニケーション能力や社会性の向上
- 知らない人とでも仲よくできることや、かたづけなどがよくできるようになったこと。
- ひとみしりが少しなおってきたと思う。やらないといけないこと、やったほうがいいことは全力で楽しんでやる。
- 初めてあった人とのコミュニケーションの取り方が分かった。また、他の土地に少し長く生活することでちがう生活のしかた、楽しみ方が分かった。
- 特に思ったのは友達をつくることです。友達をつくるのは苦手だと、いままで思っていたけれど、意外とすんなりみんなと友達になれて、前よりとくいになりました。
- 初対面でもなかよくなる力が伸びたのかなと思います。5 日間すごす中で、はじめのほうに積極的に話しかけたりできたから。
- みんなに声をかけたり、意見をだしあうところ。

◉その他
- はやねはやおきをしたり、自分でスケジュールをきめようと自信をもった。
- 四はく五かのとまったのははじめてだったからそれが成長したと思う。

3-8. 交流体験事業の参加した後、学校やふだんの生活で自分が成長できたと感じる点（フォローアップ調査）

「交流体験事業に参加した後、学校やふだんの生活の中で自分が成長できたと感じる点」を表９に示す。参加者は雪国での生活や災害対策について学び、暮らしの工夫や保存方法の知恵を得たことが伺える。また、新しい友人との出会いや交流を通じて、仲間との協力や友情の大切さを学んだことが分かる。さらに、様々な体験を通じて、積極性や挑戦の意欲などを身に付け、自己成長を感じていることが推察される。

表７　交流体験事業の参加前後の参加者の心理面・行動的側面の変化：平均得点の変化

質問項目	参加前		参加後		フォローアップ	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
自分のことが好きである	4.3	0.9	4.3	0.7	4.3	0.7
難しいこと、（例えば、勉強やスポーツなど）でも、がんばって挑戦したい	4.6	1.0	4.5	0.9	4.4	0.8
自分で決めたことや、約束したこと（例えば、ゲームの時間、寝る時間）をきちんと守ることができる	3.6	1.1	3.4	0.8	3.8	0.8
始めたことは最後まであきらめずにやりとげることができる	4.0	0.6	4.2	0.8	3.9	0.7
必要なことや大切なことであれば、いやなことでも一生懸命にやる	4.3	0.5	4.3	0.9	4.3	0.8
困っている友だちがいたら、手伝ったり、助けてあげる	4.8	0.5	4.5	0.7	4.8	0.5
はじめて会った人（友だち）と仲良くなれる	**3.9**	**0.7**	**4.4**	**0.8**	**4.4**	**0.7**
自然を大切にしたい	4.9	0.3	4.9	0.3	4.8	0.4
日本の文化（日本で昔から受け継がれてきた暮らし方や風習、建物、行事など）を大切にしたい	4.8	0.4	5.0	0.0	4.8	0.4

表８　交流体験事業の参加前後の参加者の心理面・行動的側面の変化：「とてもよくあてはまる」と回答した者の割合の変化

質問項目	参加前		参加後		フォローアップ	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
自分のことが好きである	7	58.3	5	41.7	5	41.7
難しいこと、（例えば、勉強やスポーツなど）でも、がんばって挑戦したい	10	83.3	8	66.7	7	58.3
自分で決めたことや、約束したこと（例えば、ゲームの時間、寝る時間）をきちんと守ることができる	**2**	**16.7**	**7**	**58.3**	2	16.7
始めたことは最後まであきらめずにやりとげることができる	**2**	**16.7**	**4**	**33.3**	2	16.7
必要なことや大切なことであれば、いやなことでも一生懸命にやる	**3**	**25.0**	**6**	**50.0**	6	50.0
困っている友だちがいたら、手伝ったり、助けてあげる	9	75.0	**7**	**58.3**	**9**	**75.0**
はじめて会った人（友だち）と仲良くなれる	**2**	**16.7**	**7**	**58.3**	6	50.0
自然を大切にしたい	11	91.7	11	91.7	10	83.3
日本の文化（日本で昔から受け継がれてきた暮らし方や風習、建物、行事など）を大切にしたい	**10**	**83.3**	**12**	**100.0**	10	83.3